

夜  
の  
足  
音







九兵衛が左目を失ったあの日。



粹

ちゃ...

見ていられなくて、目を逸らした。



その時に感じた痛み

あれは 何だったのか



命を好むと、強さ任せなう。

# 傷痕

桜沢いづみ







思い出す 色々な事を

……若が

帰って、  
来たから……

「粹ちゃん」…ね

はあ

そっぴや 昔は  
名前て呼び合ってたっけ……

なつかい  
かおいた…

水とか  
のまらかな…

忘れた筈の、  
二度と思い出したくない記憶も、

まだ 奥の方に残ってる。









はい？



へっ？あー、  
ははは

あんなに良かっただけに何やら  
さますい……

もう全然  
大丈夫ですよ。

「あんなに良かったけども  
良かった……」

……そうか、  
良かった。

南戸。



すまなかったな、  
突然帰ってきて。

説明も無しに、  
あんな騒動に  
巻き込んで。



……迷惑を、  
かけたと思ってる……





ずっと、謝りたいと思ってるんだ。

若。



言いたいこと  
それだけですか。

……

……

なんで  
そんな顔……

何も  
悪い事なんて  
してない

謝る必要なんて  
ないのに

まるで  
悪さを反省して  
叱られるのを  
じっと堪えてる  
子供のような



……若、  
俺も若に、  
言いたい事があるんです。









若、  
ただいまは？

……っ



皆、若が帰ってきて  
うれしーんですから。

ね。



あっ……あ、  
僕……ぼく、南戸……

何

どーしたんすか？

ああ何か

どうしよう

そんな顔  
されたら……



悪い癖が

本当  
に  
か、

帰って来ても、  
良かったのかな……？





え、

強くなって帰ってくる事で、  
父上も、お爺様も、  
喜んでくれると思ってたのだ。

僕、強くなったし、  
男として一生  
生きていく覚悟もして、

帰ってきたのに。



ここに帰ってきてから、  
父上も、お爺様も。

僕を腫れ物の様に  
扱うんだ……。



今更、

す、好きに、生きろって、  
言われたって……

どうしたらいいのか、  
わからないよ……







ごめんね 絆ちゃん。

僕、なんて。

……やめろ

生まれて来ない方が、良かったよね……

……

九兵衛！





……ごめん、

九ちゃん。



……ああ、

もう何も  
言わないで

いいから



思い出さないように

してきたのだ。

きゅん、きゅん、



思い出したくなくて、無かったのに。

俺の部屋

おごや。





昔からの俺の、  
悪い癖。

悲しそうな  
女の子を見ると、

体が  
反応してしまう。

何とかして  
やりたくて、

頭で考える前に、  
手が伸びる。



…自分でも、  
この癖は

ホントだからしねーし  
何とかしなきゃって

思ってたんだ……  
イヤほんとに……

傷ついでる女の子を  
慰めるふりをして



本当は

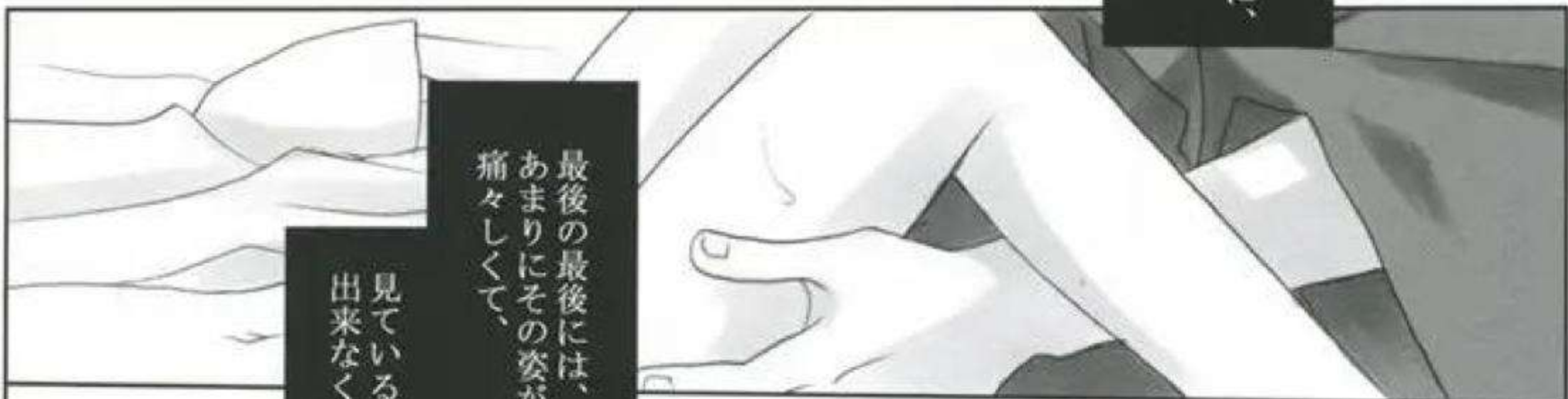
自分自身を  
慰めてる  
だけなんだ。





幼い頃、  
大好きだった  
女の子がいて。

毎日、とても  
辛そうだったのに、  
見ている事しか  
出来なかった。



最後の最後には、  
あまりにその姿が  
痛々しくて、

見ている事すら  
出来なくなっていた。

大好きだった女の子に、  
何もしてあげられなかった。



その、自分自身のトラウマを、  
慰めてるだけだって、わかってるのに。









別にどこも

うっ?

きゅんきゅん

ニッ



……大丈夫?

何がだ。

いやー……どっか痛くない?

?



……やっぱり痛い?

んんむ……

きゅーちゃん?

コレくらい……大丈夫だ。

精神統一するから話しかけるな。



?

痛いところ舐めてあげる。



痛いんでしょ

ちよつと見せて。

いっ……









舐めて  
直るってもんでも  
ねーんだけど まあ  
気持ちだけ……

っ！あ、  
ふあっ、

優しく  
気持ちいい事だけ  
してやりたい……

あっ、あっ、あっ、

やあ……  
粋、ちや……あ……

はあっ、あっ……

あっ、

はあっ……

んっ、  
んんう……っ！

んんんっ  
っ……ちや……

粋、ちやん……っ、





昨日、  
あの後、  
部屋に連れ込んで。





泣き止まない九兵衛の  
手をとって、キスをして。

九兵衛の体に触れた。

こうされる事が  
わかっていたのか、  
して欲しかったのか。

拒むのを  
恐れたのか、



あつけないほど  
簡単に、

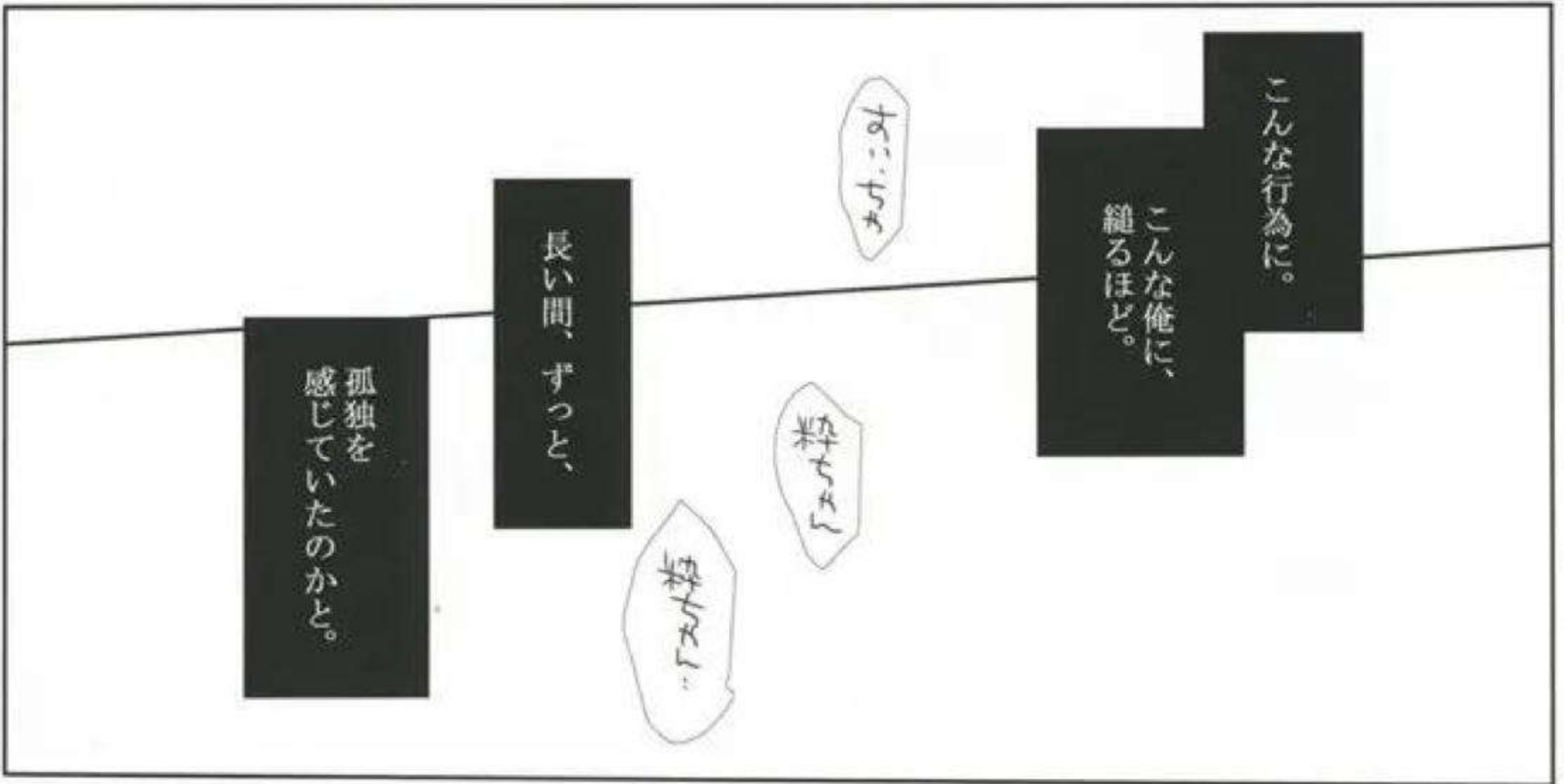
腕の中で  
体の力を抜いていく  
小さな九兵衛が、

とても  
可愛くて、

可哀想で  
仕方が無かった。















ずっと思い出せずにいた



思い出したくなかった、



知ってる。

この、  
痛み。





九兵衛の痛みも、  
寂しさも、  
全部知りながら、

何も出来ないことに  
耐え切れなくて、  
目を逸らした時の、

痛み能耐え切れなくて、  
九兵衛を見捨てた時の、あの、

……俺だって、  
ずっと寂しかった。

……いめん



九兵衛が左目を失ったあの日。

してやれる事なんて、  
何も 無くて。

目を逸らさずに、  
九兵衛の勇気を  
褒めてやれば良かった。

寂しかったよな。

ごめんな  
九兵衛、

今までよく、  
頑張ったな。

うあつ、  
ああああ、

わああああんっ  
ああああああつ

うぐつ、  
え、う、

ううう、  
ううう、

ううう、  
ううう、

！  
ズ  
ク







せめて、  
こうやって  
抱きしめて、

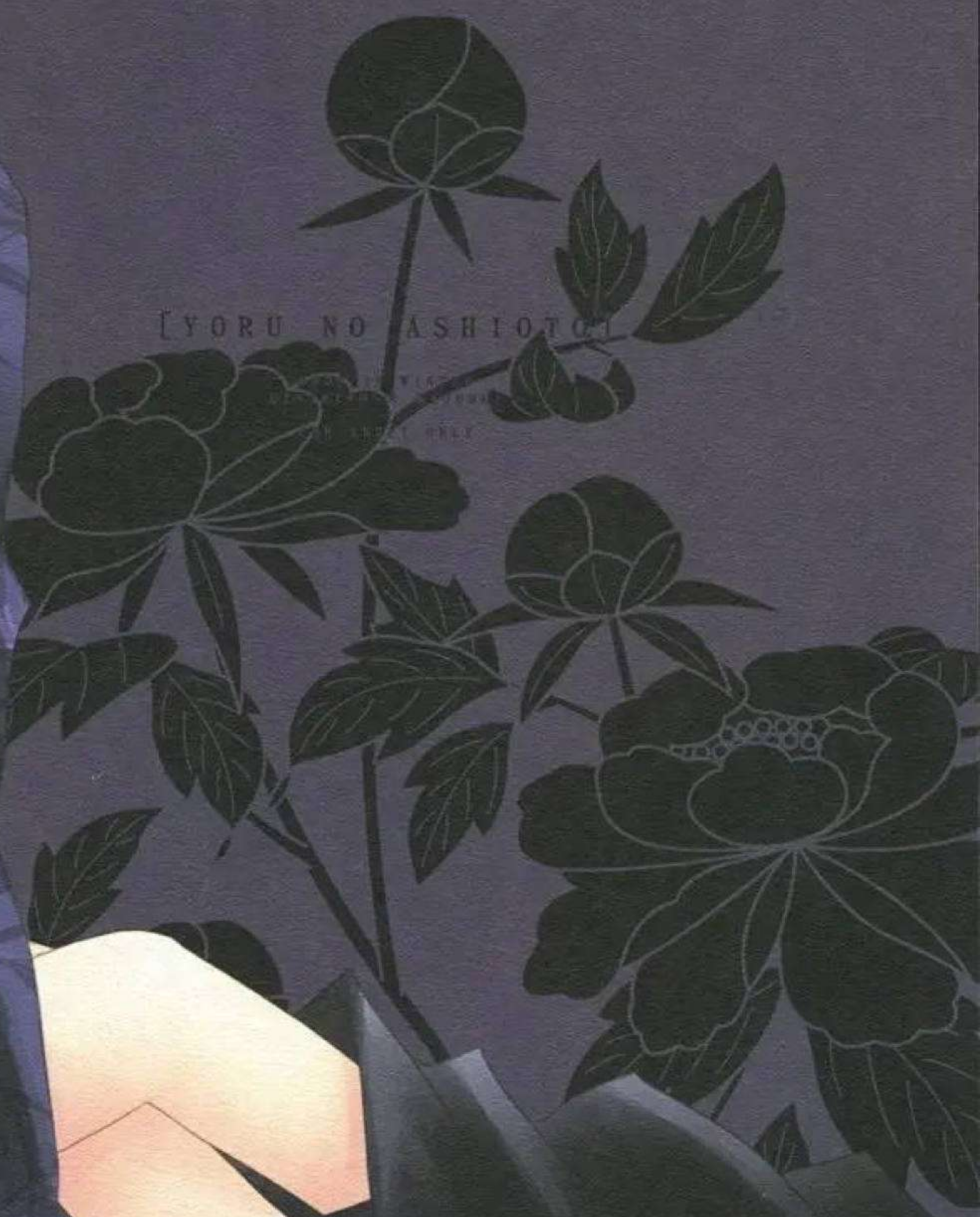
泣かせてやれば  
良かった……



ごめんな

九兵衛。





LYORU NO ASHIOTOI

